令和8年度第1回　広陵町子ども・子育て会議　議事要旨

日時：令和8年6月29日（月）午後１時 30 分～午後３時 30 分
場所：広陵町総合保健祉会館　４階　中会議室

1. 会議次第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 議事
（1）広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】と実績（令和7年度）の比較 について
（2）広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】各課取り組みの実施状況及び評価（令和7年度）について
（3）令和8年度「保育提供体制の確保のための実施計画」について
（4）その他
5. 閉会

2. 配布資料（事前送付分含む）

・会議次第
・広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】と実績（令和7年度）の比較について
・広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】各課取り組みの実施状況及び評価（令和7年度）
・広陵町こども計画
・広陵町こども計画　概要版
・広陵町こども計画　こども版
・令和8年度保育提供体制の確保のための実施計画

3. 会議出席者

委員　16名のうち9名出席
事務局　9名

4. 議事要旨

1. 開会
　事務局の進行により開会

2. 教育長あいさつ
〈教育長〉
「委員の皆さまには公私多用の中、第1回子ども・子育て会議にお越しいただき感謝申し上げる。委員の皆さまのご尽力により、令和7年の3月には「広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】」、令和8年の3月には「広陵町こども計画」を策定させていただいた。
昨年の夏休みからこどもの居場所事業を進めており、今年の夏は冷房が効いた広陵中央体育館の格技場で、中学生以下対象のこどもの居場所として、簡単に体を動かす活動を夏休みに計画をしている。
本日の議案は、広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】の実績と令和7年度の比較について、広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】の各課の取り組みの実施状況および評価について主な議題とする。」

3. 会長あいさつ
〈会長〉
「本日はご多用の中ご参集いただき感謝申し上げる。先日の統計発表で全国の出生数が約67万1236人で過去最少を10年連続更新している。少子化の深刻さを改めて突きつけられた思いである。そして広陵町が掲げるこどもたちとつくる地域の未来の実現に向け、私達の果たすべき役割がますます重要になってきているなと感じている。今年度は広陵かぐや姫まつりに、大学として企画から携わらせていただくこととなった。先端技術、地域の伝統、そして若い世代との創造性が交わり、こどもたちの笑顔をさらに生み出したいと思っている。
本日は、広陵町子ども・子育て支援事業計画【第3期】の初年度となった令和7年度の実績評価そして令和8年度の保育提供体制の確保についてご審議していただく。委員の皆さまの生活実感や、専門的な知見からぜひ活発なご意見を賜りたい。」

4. 議事
〈事務局〉
議事(1)について説明を行った。

〈会長〉
「議事について、委員の皆さんにご質問やご意見をお聞きする。」

〈委員 A〉
「新規事業はいくつかあると思うが、保護者に対してスマホのアプリから検索できるのか、広報で配られるのか等を教えていただきたい。」

〈委員 B〉
「新規事業の19ページ17番のこども誰でも通園制度について、子育てを経験した者として自分のときもこういう制度があればよかったと思った。どのような場所でお考えか教えていただ

きたい。」

〈委員 C〉
「月に1回ほど未就園児を対象に子育て支援としてにこにこ広場をやっており、一時期よりは利用される方が減ってきていると思う。これは待機児童が減っているからではないかと思う。友人等を誘い合い、そこで「ママ友」になり、ほっとできる時間になると良いなと思いながら取り組んでいる。」

〈委員 D〉
「1ページの1号認定児童の人数の量の見込みと実績の推移を拝見すると、1号認定児童が少なくなっており、こども園化していくことで2号3号認定のこどもの受け入れが広がっていくことは時代の流れに沿っていると感じた。来年度以降もこども園化が進んでいるため、待機児童の減少に繋がっていくと思った。現在、こども誰でも通園制度では、北かぐやこども園で実施しているが、今後申込みの希望がある方を受け入れるため、受け入れ側の体制整備をしていきたいと考える。」

〈委員 E〉
「認定こども園など、とても頑張っていただいているため、引き続きこの活動を頑張ってくれるとありがたいと思った。」

〈委員 F〉
「様々な支援事業があるが、お母さんたちが利用できて繋がっていける取り組みになってほしいと思った。また、時間外保育事業が量の見込みと過不足に差が出ているが、量の見込みは計画として増やすのか伺いたい。」

〈委員 G〉
「たくさんの事業を実施していただいてありがたいと思ったが、新しく実施中の事業や新規で企画されている事業が保護者の方にどのように広報されているのかが気になった。広報誌やホームページという手段もあると思うが、情報弱者という方々にどこまで隅々まで伝わっているのか伺いたい。」

〈会長〉
「これまでの意見について事務局から回答をお願いする。」

〈事務局〉
「スマホなどの媒体を取り入れ、QR コードから読み取っていただき、こどもや若者からも意見をいただくことを考えている。
また、新しい事業ができた場合について、各課からホームページや広報に掲載している。その

ような新しい事業を取り組んでいくということがわかり次第、学校や広報、ホームページ、公式 LINE 等を使い、情報の提供を充実させていきたい。」

〈事務局〉
「委員 G がおっしゃったように、情報を隅々までというのは難しいところである。広報やホームページ、公式 LINE 等で周知はするものの、やはりそのような媒体を積極的にとられない方には届きにくい場合があると考えている。ただ、どうしても必要な情報があるときには個別に周知したり、近所の民生委員等から情報が届くようにしたりと配慮はしている。」

〈事務局〉
「委員 B から質問していただいたこども誰でも通園制度の場所の確保について、現在令和8年度からこの事業は北かぐやこども園で実施している。なお、人数は受け入れに空きがあるところになっており、一時保育の状況を見ながら利用していただいているため、現在は最大でも3人までである。今後の利用状況を見ながら来年度以降、私立の保育園等にも協力いただけないか協議していきたいと考えている。
また、時間外保育の利用が急激に伸びた理由としては、畿央大学付属広陵こども園の利用者が時間外保育を利用される人数が急激に増えたことと、町外の私立保育園やこども園についても利用者が伸びていることである。現在の利用希望に関して、着実に各園において受け入れさせていただいている。」

〈事務局〉
議事(2)についての説明を行った。

〈会長〉
「議事について、委員の皆さんにご質問やご意見をお聞きする。」

〈委員 A〉
「たくさんの事業で、発展的に進めていただけていると感じる。1ページの相談支援体制の充実の情報提供について、「町民からの相談に応じて」と書いてあるが、近所の方からこども家庭センターに連絡があったのか伺いたい。
私は、常にキーワードは「地域作り」だと考えている。41ページの重点施策3に載っているように「誰1人取り残さない支援体制の充実」はとても高い目標で、たくさんの人たちが関わらないとできないことだと思う。そのため、行政、園や学校、民生児童委員、ボランティア活動をしている人だけではなく、地域の方との関わりがもっと広がってほしい。」

〈委員 B〉
「16ページの幼児教育の充実について、数年前までは保護者のみ参加の防災の講習会や収納アドバイザーによる整理整頓の方法等の講習会が開かれていた。2年前からフラワーアレ

ンジメントやカプラーの講師にお越しいただき、こどもも保護者も参加型のワークショップが開かれ有意義な活動ができた。しかし実施が平日だったため、幼稚園においても共働き世帯が現在増えており全ての家庭が親子で参加することは難しかった。今後の方向性では、廃止と書いてあるが、保育園やこども園の土曜参観や保護者が参加しやすい既存の行事と組み合わせて実施することは現状では難しいのか伺いたい。
また、18ページの学校教育の充実について、地域住民がボランティア等で教科の支援に入るボランティアとして協力している。昔遊びや地域文化の継承などは、昔から町内にいらっしゃる地域の方々だからこそ担っていただけることだと感じている。ただ、教科にもよるが、ボランティアがいて当たり前に感じられており、ボランティアの力で授業が進んでしまうことは駄目だと感じる。」

〈委員 C〉
「子育て世帯の充実が、広陵町で産みたい、住みたいというところに繋がり、少しでも広陵町が人気になり、集まってほしいと思う。
保育園で、4月から家庭の事情で気になるお子さんを預かることになったが、その際に町との連携でケース会議を開いていただき、おそらく預ける保護者も安心してくれたと思う。預かる前に顔を見て、実際に話をすることで、保護者はどういうところが困っているのかが分かった。各課の連携がとても大事で、ありがたいと思った。」

〈委員 D〉
「実際現場として感じている達成度や今後の方向性に対して、様々な視点や角度のご意見をいただけることは参考になると思った。関係機関との連携が大切になってくることを改めて感じた。
達成度が A で今後の方向性が充実や維持など同じ評価でも、その後の対応が事業によって全然違うため、「廃止」というのを見て何か違う取り組みがないか考えさせられた。」

〈委員 E〉
「こどもの安全の確保について、達成度が全て A から B となっていることがすごいと思った。
16ページのこどもの遊び場体験機会の充実について、こども全員が興味のあるものはとても少ないと思った。公民館映画祭をなぜ開催しようと思ったのか伺いたい。学童でアルバイトした経験から、今のこどもたちは外に出たがらず、室内を好むためわざわざ行かないと思った。」

〈委員 F〉
「カーブミラーや道路が綺麗になっていたことは感じていたが、町が修理している認識があまりなかったため、誰が修理しているのかをもっと町全体に周知すればいいと思った。
14ページのこどもの居場所について、実施場所の整備を進めていくにあたり、実際のこどもの声は聞いているのか疑問に思った。インターネットで意見を集めることもいいと思うが、目安箱等で直接声を聞ければ、こどもたちも自分の意見も聞いてくれると実感し、町とこどもの

繋がりを感じることができて温かい気持ちになると思った。
僕が小学生くらいの頃、ピエロ公園が改修工事で大きく変わった。その際、周囲では面白くなくなったと言っていた。公園など、こどもたちが使うものを変えるときに、こどもの意見は反映されていたのか疑問に思った。」

〈委員 G〉
「たくさんの取り組みがあり、何回も聞いているはずなのに知らなかったことがとても多かった。地域との繋がりやなかよし広場などのお母さん同士の繋がりで様々なことを知っていくと思う。健診などはほとんどの方が来られているなら、そのような機会を大切にしていただきたい。」

〈委員 H〉
「先ほどの広報手段の続きのようになってしまうが、年間を通して広報を大事に保管している家庭は少ないと思う。提案であるが、ポスター等を使い、商業施設や公園のガラス張りの掲示板などに貼って掲示するのはどうか。デジタルの時代であるため、大きなサイネージディスプレイ等を、役場やさわやかホールの1階に配置して順繰りに流していくことも効果的だと思う。」

〈会長〉
「これまでの意見について、事務局から回答をお願いする。」

〈事務局〉
「こども家庭センターの相談支援の件である。こども家庭センターに直接住民の方から相談を持ちかけてこられることは少なく、けんこう推進課の保健師を通じ、困っていることや心配なことの相談が一番多い状況である。その上でこども家庭センターの中には、けんこう推進課や子育て総合支援課、教育総務課などが入っており、連携して、情報を集約し、相談に対してどのように対応していくか考えている。現在、さわやかホールの2階にそれらの部署が集約されている。
こどもの居場所については、社会福祉協議会が中心となり、地域の公民館や集会所がこどもの居場所となり、地域の方と交流するのが理想的ではないかと考えている。ただ、そうなると地域にも負担がかかるため、そのようなところには補助をさせていただいている。現在は、地域団体、他のボランティア団体に応募していただいている。地域の居場所を地域で作っていただくことで、地域作りを強めていきたいと思っている。
また、こどもの居場所のアンケートについて、実際にこどもの居場所を使ったこどもたちに紙で書いてもらって集計している。
委員 E から今後の方向性を見てすごいと思ったとおっしゃっていただいたが、達成度については担当の主観が入っている。客観的な数値で割り出せるものと割り出せないものがあるため、今回の評価には主観的なところも入っていると反省点がある。ただ道路の整備等で、計

画通りに進んでいればＡをつけている状態である。
文化祭の映画について、家庭の事情で映画が見られないこどももいるので見てもらおうということで始めた。今は携帯等でも見られるため、参加人数が少なくなっていき、今回見直し、廃止するとなった。
ピエロ公園の件について、改修工事して面白くなくなったという意見は今を象徴したものだと思う。昔はこどもの意見を聞くという発想はなかったと思う。様々な制度が改正され、行政の仕事にもこどもの意見を取り入れないといけないとなっている。一昨年から教育長が、こども会議を開き、町内の小・中学生を集め、こどもたちがどんなことを考えているのか、どんなことをしてほしいと思っているのかを議論してもらっている。
委員 H のご意見より、デジタルサイネージは役場とさわやかホールの1階にある。そこを利用できないか担当課とともに検討してまいりたい。」

〈事務局〉
「委員 B から意見をいただいた家庭教育学級の件について、参加ニーズが減少している現状である。幼稚園に通園されている方の保護者でも、パートタイム等で働いておられる方が増加しており預かり保育を利用される方も多いため、意見をいただいたように土曜参観を利用できないか検討したい。真美ケ丘第一小学校附属幼稚園で行った、保護者が実際に保育で参加していただく保育参加など、また良い方法を相談しながら考えていきたい。」

〈事務局〉
「ボランティアに参加いただき、学校の方は非常に助かっている。基本的には、先生がねらいをもって授業を作っていくため、そこを中心にしていただきたいと思っている。ただ、ボランティアが詳しいことや、実習等で非常に助けをいただいている。しかし、そこに甘んじるわけではなく、学校の先生がねらい通りの手段をもってボランティアと一緒に授業を作っていくことが大切だと思う。」

〈事務局〉
議事(3)について説明を行った。

〈会長〉
「事務局の説明について、ご質問又はご意見のある方を伺う。」
→意見なし

〈事務局〉
議事(4)について説明を行った。
「夏休みに運動できる居場所として、中央体育館格技場を8月8日、22日に中学生以下を対象に開放する。奈良県ニュースポーツ協会と畿央大学に協力していただき、イベントも行う予定である。」

〈会長〉
議事を終了する。

5 閉会

（以下余白）